

「わたしたちへの約束」

マルコによる福音書 13章 1-23節

森島 牧人 牧師

今日の聖書箇所には、主イエスの珍しくユダヤ的で黙示文学的な御言葉が次々と出て来て、知識のない私たちにはちょっと分かりにくいかもしれませんが、ご一緒に読んでまいりましょう。

子ろばに乗り、群衆の「ホサナ（救い給え）、ホサナ」の歓呼の声に迎えられての、主イエスのエルサレム入城のシーンは、主の行動の中では極めて顕示的な場面として聖書に銘記されていますが、今日の神殿の境内を出て行かれる場面は、それに比べると短い文章で、実に淡々と書かれています。しかし、主の伝道の日々が終わり、十字架の死を待つだけとなった、この日の主イエスの弟子たちとの会話には、見過ごすことの出来ない、重要な意味が隠されています。

聖書には、弟子の一人が境内を歩きながら、「先生、御覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」（マルコ 13：1）と言ったとあります。紀元前 20 年頃に建築が始まり、この時には未だ完成していなかったと思われる、この巨大なエルサレム神殿は、建物の多くが黄金で覆われており、日の出の時には眩しくて見えないと言われていたようで、ガリラヤの田舎出身の弟子たちを圧倒するには十分過ぎるものでした。しかし弟子のこの賛嘆の言葉に対して主は、「これらの大きな建物を見ているのか。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」（同 13：2）と、神殿の崩壊を予告するような応答をされたのです。

事実、その 40 年後、エルサレムはローマ帝国に攻め落とされ（A.D.70）、神殿も崩壊します。まさに予告は的中したことになるのですが、建物に目を奪われるばかりの弟子たちに主が言おうとされたのは、この神殿に勝るものがここにいるのに、つまり「神が人間の救いのために神殿より遥かに勝る御子・主イエスをお遣わしになり、その御子の十字架の死によって人間の罪が贖われ、終わりの日に御子の復活に与らせていただくという、永遠に変わる事のない神のご計画」が、あなた方には何故見えないのか、ということでした。

主のこの御心を理解しない弟子たちは、さらに、神殿の聖所が正面に見えるオリブ山に座っておられる主イエスに、「そのこと、すなわち主の日・世の終わりはいつ起こるのか。それにはどんな徴があるのか」と密かに尋ねます。実はユダヤの民には「主の日・世の終わり」を待望するという思想がありました。人々はイザヤの預言などを聞きながら、自分たちが「選民」としての栄光に包まれる、世の終わりの日を強烈に夢見ながら、長きに亘る悲惨な状況を生き抜いて来たのです。

弟子たちの問いへの主の答えは、「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけない。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。…」（同 13：5-7）というものでした。この中の「…決まっている」という言い方は、主の受難の予告、「人の子は必ず多くの悲しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている。」（同 8：31）などと同じ、「ねばならない。必ずこうなる。」という言葉として、ここで用いられています。

主は続けて、「苦しみは激化するがそれは産みの苦しみの始まりである。あなたがたは打ちたたかれ、証しをすることになる。しかし、まず、福音があらゆる民に宣べ伝えられねばならない、と。しかも、引き渡され、連れて行かれる時、何を言おうかと取り越し苦労をしてはならない。そのときには、教えられることを話せばよい。つまり、話すのはあなたがたではなく、聖霊なのだ。…」（同 13：9-11）と言われました。これは主イエスに従う者だけに共通する特別な苦しみの暗示ですが、それでも福音がすべての民に宣べ伝えられるということは、神の御業・神の宣教なのだと言われたのです。そして、それゆえに宣教に当たる者の語るべきことは、聖霊として私たちと共におられる主イエスご自身が教えるとの「約束」を示されたのでした。

主のお話にあるように、その時には、偽メシアは必死で業や徴を行って、信ぜよと迫るに違いありません。しかし、真のメシアである主イエスは、「今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら信じてやろう。」（同 15：32）と罵られても、決して降りようとはなさらず、苦しみの果てに十字架の上で死を迎えられるのです。もし主が降りておられたら私たちの救いはなかったからです。

ですから、私たちが決して忘れてはならないのは、悔い改めて福音を信ずる・主イエスの出来事を信ずることです。これ以外に慰めはありません。どんな苦難・迫害に遭っても私たちキリスト者は耐えしのぶ、それは主の勝利に与るという約束を、私たちは神からいただいているからです。十字架の道への直前、主イエスはそのことを、私たちに言われたのです。